

中学校(学級)における実践③(10月)

「仲間の入り方」(ソーシャルスキルトレーニング)

○ 本時のねらい

- ・ 仲間に入るときの声掛けのスキルを高め、仲間に入ることができる。

○ 展開 (50分)

学 習 活 動	教師の働き掛け	準備物
<p>1 本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 上手な仲間の入り方の練習をしよう </div> <p>2 授業を進める上での約束を確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 約束 <ul style="list-style-type: none"> ・ 恥ずかしがらない ・ 冷やかさない ・ よいところを見つける </div> <p>3 モデリングを見て、頼み方のポイントを知る。</p> <p>(1) 仲間の入り方のモデリング(3パターン)をする。</p> <p style="margin-left: 20px;">I もじもじして</p> <p style="margin-left: 20px;">II 横柄な態度で</p> <p style="margin-left: 20px;">III ポイントを意識して</p> <p>(2) 「仲間の入り方」のポイントをまとめる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 仲間の入り方のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・ 笑顔で ・ 近付く ・ 相手を見て ・ 聞こえる声で ・ 仲間に入りたいことを伝える </div> <p>4 「仲間の入り方」の練習①をする。</p> <p>(1) 『1・2・3で集合ゲーム』をみんなで行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活の中で、仲間に入りたいと思ったときに、声が掛けられなかった経験はないかを尋ねる。 ・ 約束が必要な理由を添えて説明する。 ・ モデリングは、教師が行う。(T1、T2) ・ モデリングは、ポイントが分かりやすいように大げさに演じる。 ・ どのパターンがよいのか比べさせる。 ・ モデリングが終わったら、仲間に入りたい役をした教師に、どのモデリングがよかったかを聞く。その後に、生徒に仲間の入り方のポイントを聞いて板書する。 ・ 仲間の入り方の練習を体験させる。 	<p>モデリングシナリオ</p>

『1・2・3で集合ゲーム』

- ① 一斉に教師の合図で指を1か2か3で出す。同じものを出した人同士が集まるゲームを行う。
- ② 2回目は出した1・2・3を示し、「○○さん、入れて!」「○○さん、一緒にいい?」等と言って集まる。
- ③ 声を掛けられた人は「いいよ」と返事をする。→「ありがとう」と言って返す。

(2) ゲームのとき、それぞれどのような気持ちがあったか振り返る。

(3) 振り返りシートに自己評価をする。

5 「仲間の入り方」の練習②をする。

(1) 4人組になり、ポイントに気を付けながら、練習②をする。

(2) グループで話し合い、練習②を振り返る。

<生徒の活動の様子>

- ・「仲間に入る練習をしたことがなかったので、今日はとてもためになった」
- ・「最初はあまり声が出なかったけど、2回目、3回目は相手に聞こえる声で言えた」

(3) 振り返りシートに自己評価を書く。

6 「仲間の入り方」の練習③をする。

(1) 練習③で、特に気を付けたいポイントや新しいポイントを作って、意識して練

・楽しく取り組ませ、ゲームで感じた気持ちを交流させる。

・ゲームで感じた気持ちを振り返りシートに記入させる。

・役割を分担し、「仲間に入る役」と「相手役」を1人、「観察役」を2人決める。

・「観察役」は、5つのポイントができていたかを確認し、「仲間に入る役」の生徒にできたポイントを伝える。

・1回目の練習は、積極的に行う生徒からするように促す。

・練習でポイント使って仲間に入っている生徒はその都度ほめる。

振り返りシート

・「仲間に入る役」は、2つの場面を選択させる。

・練習②と同じように役割を分担し

<p>習をする。</p> <p>(2) グループで話し合い、練習③を振り返る。 <生徒の活動の様子></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「いくつか考えて言うパターンを、作っておいてからするといいと思った」 ・「練習をつかって学校生活に生かしていきたい。断られたときもしっかり考えておきたい」 </div> <p>(3) 振り返りシートに自己評価を書く。</p> <p>7 今日の学習のまとめをする。</p> <p>(1) 今日の活動を振り返り、振り返りシートに自己評価を書く。</p> <p>(2) チャレンジ週間での取り組み方を知る。</p>	<p>て、全ての役を体験させる。</p> <p>・学校生活で、「仲間の入り方」を意識しながら考えさせる。</p>	<p>チャレンジ週間シート</p>
---	--	-------------------

《参考 URL》

・平成 22・23 年度佐賀県教育センタープロジェクト研究 小・中・高等学校教育相談研究委員会

http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h23/06%20kyouiku-soudan/index.html

○振り返りシートより

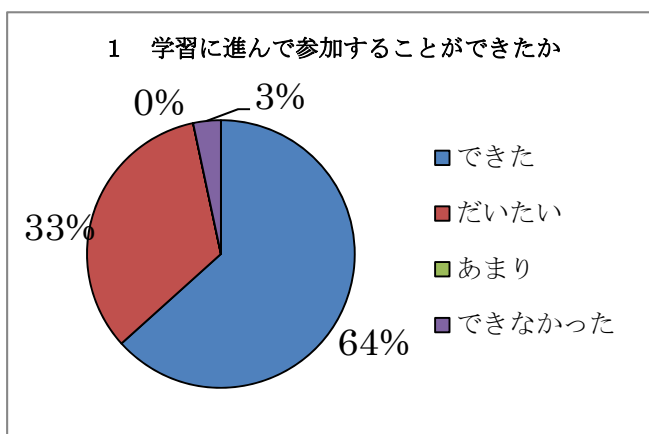


図1 授業のアンケート結果

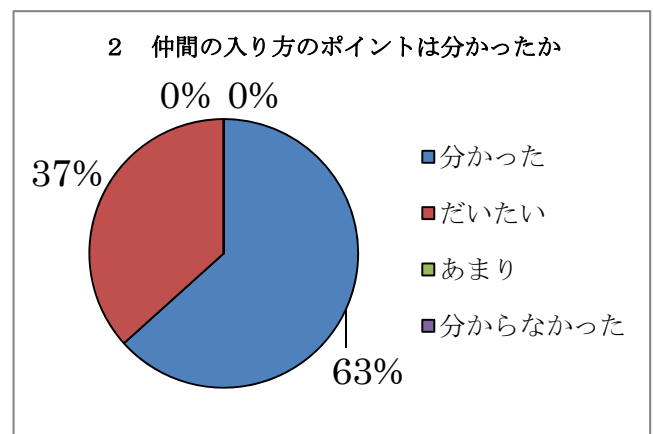


図2 授業のアンケート結果

<生徒の感想より>

- ・1人ぼっちをつくらないことが第一だけど、もし、1人いて、自分たちのグループがこういう場面にあったら、「いいよ」と言いたいと思いました。
- ・私は、仲間に入りたくても、恥ずかしかったり、断られたらどうしようと思って、なかなか入れないときがあったけど、ソーシャルスキルトレーニングをして、恥ずかしがらず、自分から話し掛けたいと思います。

- ・「仲間に入れて」なんて、とても言いにくいと思っていましたが、それ以外の言葉もあると分かって、仲間に入りやすくなった。
- ・グループに入るときの言い方などが分かりました。逆に私たちのグループに入れてと言われたとき、快く受け入れたいです。
- ・仲間に入れた気がして楽しかった。断られて傷付くのが嫌で話し掛けてなかったけど今日の授業で「いいよ」って言うてくれることを知れたからよかった。
- ・今日の道德の学習で仲間の入り方を班で行い、意外と難しいんだと思いました。
- ・私も時々グループに入れないうちがあります。だけど、この学習で笑顔や相手を見て話すなど、いろんな事が学べたと思います。
- ・最初はあまり声が出ていなかったけど、2回目、3回目は相手に聞こえる声で言えたのでよかった。

○授業を振り返って

【集団について】

今回の学習に対して、アンケートの結果から「仲間に入りたいとき、自分から仲間のそばに近付いていますか」の問いに31人中27人が「できる」「だいたいできる」と答え、この授業に関心が高く、意欲的に活動する生徒が多かった。「仲間の入り方のポイントは分かりましたか」については、「できた」「だいたいできた」と全ての生徒が答えていた。授業前に比べると、仲間の入り方への意識が高まったと考えられる。前回のソーシャルスキルトレーニング(SST)「話の聴き方」の練習では、恥ずかしがって練習をしなかった生徒が、今回の練習①では、大きな声を出しながら活動していた。また、恥ずかしそうにしていた生徒も周囲の生徒が積極的に声を掛けながら練習をしたため、授業は活発に行うことができた。さらに、「観察役」が「仲間に入る役」に、仲間の入り方のポイントを分かりやすく伝えており、感想では、「やってよかった」という内容の記述が多かった。これまで友人に声を掛けずにいたり、声の掛け方のポイントが分からずにいたりして、ほとんどの生徒が仲間の入り方が分からなかったが、生徒たちはスキルを身に付け、仲間の入り方に気付いたと考える。

【個人について】

Aは、「(練習のときに)笑うことがなかったが、(相手に)笑って言いたいと思った」と記述している。友人に声を掛けられたときに、からかわれていると感じることが多かった。友人とかかわるスキルが身に付いていないと捉えることができる。今回の授業で、練習のときに「仲間に入る役」をして声を掛けられ、「相手役」が「いいよ」と言った後に、嬉そうな表情であった。Aは、SSTの練習で、仲間に入ることの心地よさを味わったことができたと考えられる。

Bは、「いつもは『仲間に入れて』とは言わないけど、今日の授業で話すときの笑顔や言葉遣いなどが大切ということが分かりました」と記述している。「仲間の入り方」をする前は、引っ込み思案で、仲間に入りたい様子であったが、友人に声を掛けずにためらうことが多かった。今回のSSTでは、友人が自分をどう思っているかという不安を解消するために、自分から積極的に声を掛けながら練習に参加していた。SSTの活動を通して、仲間に入るときの声掛けのスキルを学んだと考えられる。

Cは、SST「仲間の入り方」の練習のときは話すことができず、その場面は教師がCの代わりに練習に参加した。その後もCは、声を出して練習することはなかった。放課後、Cは、職員室まで訪ね「ありがとう」と教師に言って来た。Cは、授業で声掛けの練習ができずにいたが、教師と友人で行った練習を見て、仲間に入る時の声掛けのスキルを見て学んだと考えられる。